

HP 公開用説明文書

研究課題：小児の脳梗塞の原因、診断、治療についての研究

研究の趣旨：小児の脳梗塞は、成人と異なり稀で、海外では、新生児期発症の脳梗塞は1/2500～1/4000 出生、1歳以降の小児期発症は1～3/100000 人/年と報告されています。発生機序も、アテローム血栓性梗塞、心房細動による心原性塞栓症が多い成人と異なるだけでなく、人種差もあると考えられます。そのため、日本での調査が必要です。小児の脳梗塞について、十分な検討がなされておらず、症例を集積し、それらの問題点を明らかとすることを計画しています。

研究の目的：小児の脳梗塞の症例を集積し、発生頻度、原因、診断、治療、予後を、明らかにします。

研究の方法：各施設に対し郵送でアンケートを行います。アンケートは2回方式で行い、初回アンケートでは症例の経験の有無と年齢、性別、原因疾患を調査します。初回アンケートで「症例あり」の施設については、2次調査への協力を依頼し、匿名可された疫学情報、画像を収集します。画像データについては、セントラルレビューを行う予定としています。それらデータを用いて、小児の脳梗塞の解析をおこないます。

対象とするデータは、既存の臨床データと予後に関するデータであり、新たな検査等は不要です。

研究機関：名古屋大学、名古屋市立大学、藤田医科大学、愛知医科大学とその関連病院で行います。

連絡先：本研究に関する連絡先は以下の通りです。本研究は匿名化データを使用していますので、個人情報漏洩の危険はありません。疑問がある方は遠慮なくご連絡下さい。

研究代表者：

名古屋大学大学院医学系研究科小児科学 夏目淳

〒466-0065 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65